

17年度私立大中途退学状況

私立大の17年度中退者5万5,500人、 中退率2.9%！

中退理由は、他大学への進路変更21.0%、
経済的困窮18.6%、就学意欲の低下14.2%など。

旺文社 教育情報センター

19年5月

私立大における17年度の中途退学者(以下、中退者)は5万5,497人、2.9%に上ることが、日本私立学校振興・共済事業団の調べでわかった。

中退の理由としては、「他大学への再入学や編入学などの進路変更」21.0%、「経済的困窮」18.6%、「就学意欲の低下」14.2%などで、高校と大学との接続がうまく機能していないことや、学部教育における大学側と学生側のニーズのズレ、家計負担の重さなどが浮き彫りになった。

年度間で3%の中退率は、入学から卒業までの4年間では10%超の中退者を出すことになり、私立大にとって学生の定着率をいかに高め、維持していくかが今後の課題だ。

以下に、同事業団のデータを基に私立大の中退状況をまとめた。

<私立大基礎データ>

中退者；5万5,497人

中退率；2.9%

右表の「基礎データ」は、日本私立学校振興・共済事業団が昨年実施した18年度「学校法人基礎調査」の一部である。

このうち、「中退者数」については17年度の集計数であるため、「中退」に関しては17年度の状況としてみるべきであろう。

なお、18年度の「入学定員割れ」は550校中、過去最多の222校・40.4%に達している。

以下、ここに掲載した図表は、同事業団発表の資料に基づく。

基礎データ (表1)

区分	集計数
大学	550校
入学定員A	440,335人
入学者数B	472,253人
入学定員充足率B/A	107.2%
収容定員C	1,763,161人
在籍者数D	1,934,881人
収容定員充足率D/C	109.7%
中退者数E	55,497人
中退率E/D	2.9%

注。「基礎データ」は18年度調査によるが、「中退者数」は17年4月1日～18年3月31日(17年度)の状況をまとめたものである。「中退率」は加重平均。

(「日本私立学校振興・共済事業団」資料による)

< 学年別中退者の人数・割合、構成比 >

2 年次と 4 年次の中退者数(割合)が、1 年次・3 年次より多くなっている。これは、専門教育の比重が大きくなり、編入学の比較的多い時期となる 3 年次を控えた 2 年次と、卒業・就職を迎える 4 年次が、それぞれ転機となっていることを示している(図 1 参照)。

また、学年別の中退者の割合も、同様の傾向を示している(図 2 参照)。

● 「入学→卒業」の 4 年間では、10%超の中退者！

表 1 に提示されている中退率 2.9% は、17 年度 1 年間の数値である。そこで、私立大入学時 “ 47 万人 ” の同期生が、4 年間(6 年制課程省略)でどう変貌していくか試算した。

①1 年次(入学時)	47 万人	→	< 中退 1.2 万人 >	→	②2 年次(始期)	45.8 万人	→	< 中退 1.6 万人 >	→
③3 年次(始期)	44.2 万人	→	< 中退 0.9 万人 >	→	④4 年次(始期)	43.3 万人	→	< 中退 1.5 万人 >	→
⑤4 年次(卒業)	41.8 万人								

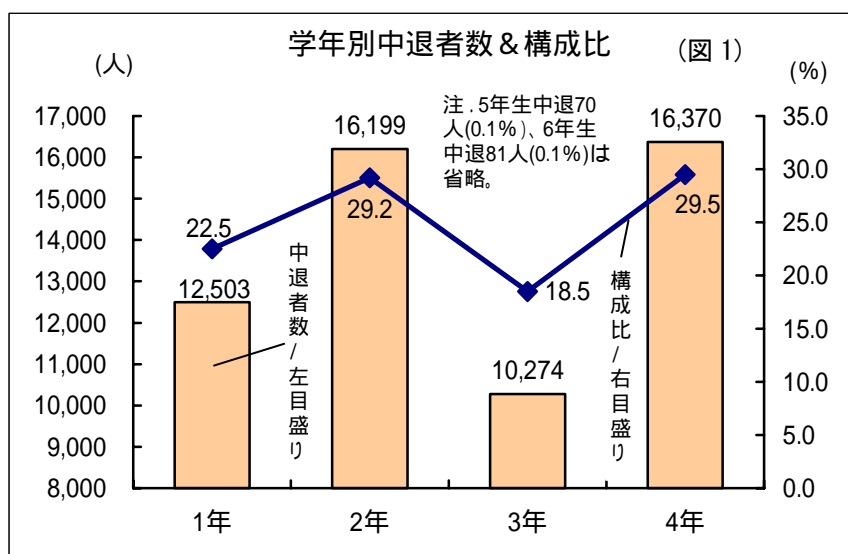
つまり、入学時の同期生 “ 47 万人 ” は、4 年間で “ 41.8 万人 ” となり、“ 5.2 万人の中退者 ” (中退率 11.1%) を出すことになる。これは、決して小さな数ではない。

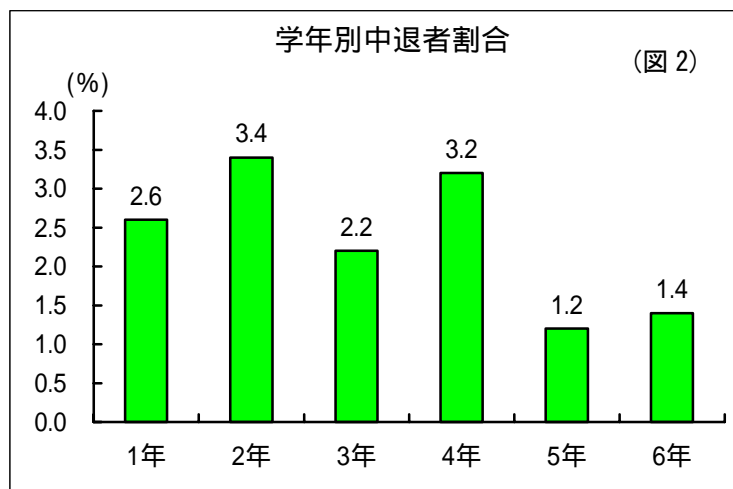
● “OECD データ” では、日本の中退率 11%！

OECD(経済協力開発機構)のデータベース教育指標 2000(Education at a Glance : OECD Database 2000 - 日本に関する注目点)によると、日本の大学中退率は “ 11% ” で、他のどの OECD 諸国よりもはるかに低いという。OECD 諸国で中退率が低いのはイギリスの 19%、最も高いのはイタリアの 65% で、アメリカは 37% であるという。

ここでいう中退率は、おそらく前記のような入学時～卒業時までの中退者の割合であろう。先に試算した中退率 11.1%(私立大に限定だが)と符号する。

なお、OECD では毎年、データベース教育指標を著しているようだが、「中退」に関しては 2000 年以降、掲載されていないようだ。

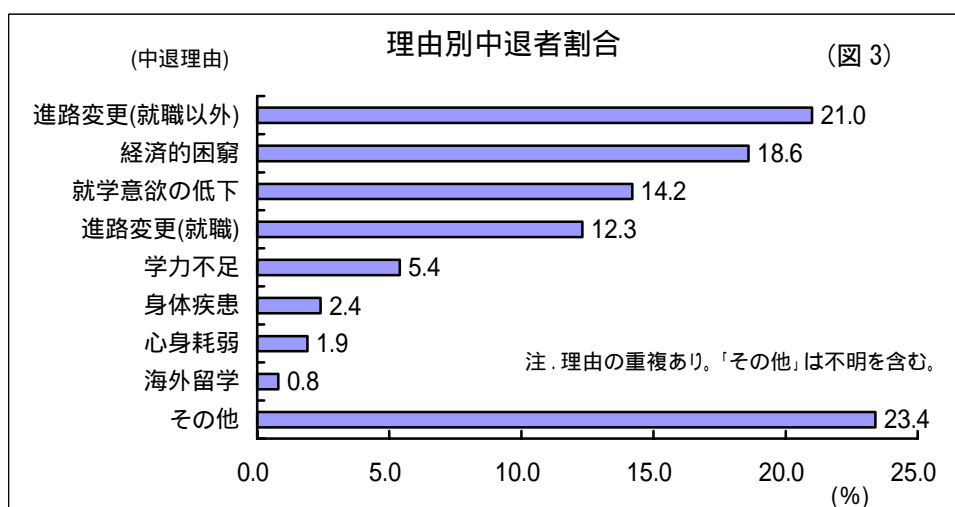




< 中退理由 >

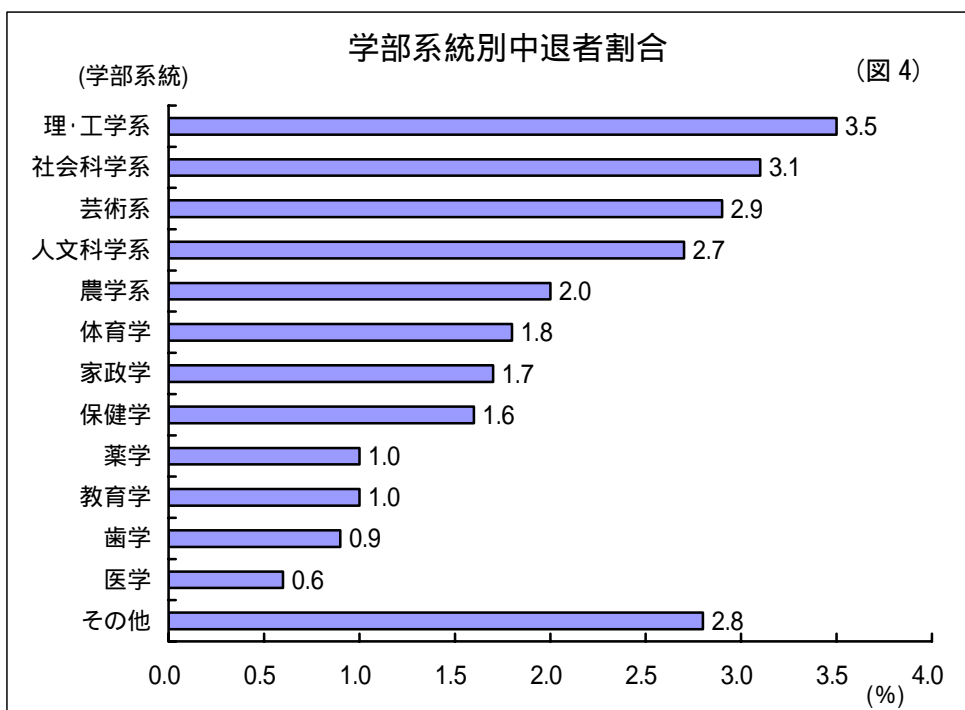
中退の理由としては、「他大学への転出など、就職以外の進路変更」が最も多く 21.0%。以下、「経済的困窮」18.6%、「就学意欲の低下」14.2%、「就職による進路変更」12.3%、「学力不足」5.4%などとなっている(図 3 参照)。

他大学への転出、中退は、不本意入学(所謂、仮面浪人など含む)による再受験・再入学や、専門分野の変更などによる編入学、あるいは海外留学など、本人にとっては有意義な選択の結果であるともいえよう。問題なのは就学意欲の低下や学力不足による中退で、大学側には、入学者選抜方法や、高校と大学との接続を視野に入れた初年次教育の改善、充実などが求められる。



<理工系に多い中退者>

学部系統別状況を見ると、理・工学系 3.5%、社会科学系 3.1%などとなっている(図4参照)。理工系が多いのは、理系は男子が多い(中退者の男女比；男子 7 対女子 3)、文系に比べ学力格差(学力・技能の低下)が露呈しやすい、経済的負担が大きい、などの背景があろう。一方、目的意識がしっかりしていて、資格取得が必要な医・歯・薬学は、1%以下の低い中退率である。



<中退率 1% ~ 3%未満の大学が4割>

中退率の区分ごとの大学数を見ると、1% ~ 3%未満が全体(550校)の4割を占める(図5参照)。

